

《担当者名》竹生 礼子 [take-r@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

在宅看護学で用いられる理論や概念枠組みを明確にしながら、人々の暮らしと健康、生活と医療の統合と、QOL向上を目指した看護を探究する。在宅看護学の立場から取り組むべき研究課題と研究方法を学修する。在宅看護学実践の質の向上に寄与する研究を実施するための科学的かつ多角的思考を身につけ、創造的な研究の推進能力の必要性を理解する。

【学修目標】

1. 在宅看護学領域の研究で用いられる理論や概念枠組みを、国内外の先行研究や関連資料の検討に基づき理解する。
2. 国内外の先行研究の論理的一貫性を吟味するために文献をクリティークし、クリティカルシンキングの力をつけることができる。
3. 在宅看護学実践の質の向上に寄与するために、今後必要とされる研究課題と研究方法を整理することができる。
4. 社会背景と在宅看護学領域における研究の動向を概観し、社会に寄与しうる研究課題を見出すことができる。
5. 自身の研究推進能力について検討し、研究者としての今後の課題を明らかにできる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|--|---|-----|
| 1～4 | 文献検討 在宅看護学領域の研究で用いられる理論と概念枠組み | 国内外の先行研究や関連資料を検討し、用いられている理論や概念枠組みを整理する。 | 竹生 |
| 5～11 | 文献検討 研究の論理的一貫性の検討 | 国内外の先行研究のクリティークを行い、研究の論理的一貫性を検討する。 | 竹生 |
| 12～15 | 在宅看護学領域で今後必要とされる研究課題と研究方法の整理、必要とされる研究推進能力の検討 | これまでの検討を概観し、在宅看護領域で今後必要とされる研究課題を整理する。 研究課題の解決のために適切な研究方法を検討する。 研究課題の解決のために必要となる研究推進能力を検討する。 | 竹生 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

プレゼンテーション（40％）、討論の参加状況（20％）、課題レポート（40％）

【教科書】

指定なし。適時必要資料を配布する。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

学修目標の達成にむけ、国内外の先行研究や関連資料を熟読し、プレゼンテーション資料の準備をして授業に臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得するという看護学専攻博士後期（博士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。